
エッセイ「カレーライス事件」

川越ふみ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

エッセイ「カレーライス事件」

【Nコード】

N9323J

【作者名】

川越ふみ

【あらすじ】

お笑いエッセイ書いてみました。

(前書き)

小説ではなく、エッセイです。

子供達に好きな食べ物は何かと訪ねると、『カレーライス』と答える子供は多いだろう。自分も子供の頃にその質問をされたら、そう答えていただろう。そしてそれは大人になった今でも変わらない。小学6年生の時、家庭科の授業でカレーライスを作る事になった。授業は4時間目で、これが終われば給食の時間だった。そんな給食前にやる事自体おかしな話だが、その時は、給食が2回あるとか言つて、アホみたいに喜んでいたりした。馴れない包丁さばきに悪戦苦闘しながらも、それぞれの班のカレーライスが無事出来上がり、試食タイムになった。時間が時間だけに、みんな給食のごとくたらく平らげた。

そして家庭科の授業も終わり、続いて本当の給食の時間になった。食べ盛りのワンパクな自分達にとって、そんな事は問題ではなくお徳感さえ漂い、歓喜していたが、給食当番が大食器のふたを開けた瞬間、それは悲鳴に変わった。あれ？さっきまでこの匂いが漂っていたような……。そう、本日の献立は、紛れもなくさつき作つて食べたばかりの『カレーライス』だった。ゲップをしようものならカレーライスの味がまだする。今月の献立表は教室に貼られていたが、全く見ていなかったのはうかつだった。そうすれば、事前に家庭科の先生に意義を申し出る事も出来たはずだ。家庭科の先生も先生で、調べておいてくれよといった感じだが、まさか先生も家庭科のカレーライス実習と給食のカレーライスがかぶるなんて思つてもいなかったのだろう。

クラスメイトの給食のおばちゃんに対する殺意が漂う中、物凄いテンションの低い給食タイムが始まった。「それでは、いただきませう」という給食当番のお決まりの挨拶がイヤミにさえ聞こえる。ただ一人もりもりカレーライスを頬張る先生を横目に、あまり箸というかスプーンのの進まない友人達。しかし、やはりそこは食べ盛り

の自分達だ。先程とは違うプロが作ったカレーライスに「うまい、うまい」とおかわりさえした。そんな事が出来るのも、『カレーライス』だからこそなんだろう。だてに子供の好きな食べ物ランキングに毎回上位にいる訳ではない。さすがはカレーライス。他の物であつたならば、30人程のクラスメイト達で給食センターに殴り込みに行つていたかもしれない。

なんとか殺意を抑え込み、学校が終わると真っ直ぐ家路に向つた。家に到着し、玄関に向かう際、腹が立つ匂いが立ち込めた。まさか……。勢いよく玄関を開け、母親を見ずに、じっくりコトコト煮込んでいる鍋を直視した。

「今日はカレーライスよ！」

母親は満面の笑みで自分にそう言った。

勢いよく玄関の扉を開け、入つた来た自分の姿は、母親には外にまで立ち込めるカレーのスパイシーな匂いに、興奮のあまり飛び込んで来たカレーライス大好き息子に映つたのだろう。無理もない。母親には自分がカレーライスが大好きだという過去のデータがインプットされてはいるが、今日、学校であつた最新の出来事は、母親にはまだ送り込まれていないのだから。

自分はその現実に感情が一周し、笑けてさえきた。そんな自分の笑みに、母親は、もー、この子は本当にカレーライスが好きなんだからと勘違いしたに違いない。感情が一周しておかしくなりつつある自分には、今日の出来事を笑つて話せる余裕はなかったが、そこは食べ盛りの自分だ。給食時より更にテンションが低くはあつたが、その日の夕食をなんとか済ませ、眠りについた。

次の朝、目が覚め、起きだすと、「昨日のカレーが余ってるんだけど食べる？」

と母親が自分にそう言った……。うかつだった。カレーライスが夕食の翌朝は余つたカレーがお決まりなのをすっかり忘れていた。翌朝のカレーがまたうまいんだこれが。普段だったら、そうまっさきに食いつく所だろうが、いくら食べ盛りの自分といえども、もし

この誘いにのれば4回連続カレースライスになってしまうと、早朝から腹が立った。

「うるせー!!!」

母親に対し、自分は今日の第一声でもあるその言葉を叫んだ。

今思えば、それが反抗期の始まりだった。

(後書き)

くだらないエッセイをお読みいただき、ありがとうございました。
ご感想をいただけると嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9323j/>

エッセイ「カレーライス事件」

2011年10月6日18時32分発行